湯沢が生んだ偉人

了翁さま

日本の公開図書館開創者
仏教の興隆に尽くした黄檗宗の高僧
社会福祉活動の先駆者

秋田県湯沢市
了翁禅師研究会
問合せ先　湯沢市岡田町4-4　TEL 0183-73-7755
（湯沢市参加・協働のまちづくり補助金活用事業）

東叡山寛永寺と勧学講院

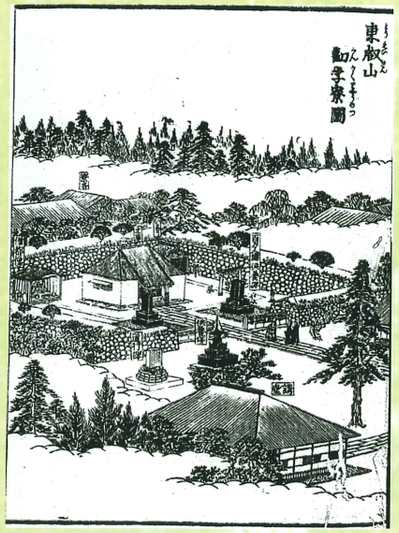
了翁禅師は隠元禅師に師事した黄檗宗の僧侶で、終生の事蹟は全国に及びますが、元禄７年（1694）65 歳の時黄檗山萬福寺に天真院を建立し、居住するまでは主に江戸で活躍しました。

寛文 10 年（1670）41 歳の時、上野不忍池に小島を築き経堂を建て、大蔵経７千巻を購入し東叡山寛永寺（天台宗）に寄進しました。翌年には経蔵・文庫を増築し大蔵経を移し替え、さらに万巻の書を集め一般に開放したことから、「日本の公開図書館開創者」と云われています。

また、貞享元年（1684）、東叡山内に講堂・文庫・経堂・無料の寮を備えた学問所「勧学講院」を建て、僧俗６百余人が参集し多くの人材を育てました。東京都文京区千駄木にある学校法人駒込学院は、「学園の沿革」冒頭に「了翁禅師により勧学講院が上野不忍池の畔に創立され、これが本学園の濫觴（＝起源）となる」と掲げ、遺徳を今に伝えています。

現在寛永寺根本中堂脇に鎮座している了翁禅師の寿像は、勧学講院の石垣・柱石造営を請負った海野荘太夫が発起し建立しました。慶応４年（1868）戊辰戦争により寛永寺が焼失、了翁像も長年の間露座となっていましたが、昭和 49 年（1974）に黄檗宗・天台宗・図書館学会関係者が発起し、土岐善麿氏を代表に募金活動を行い堂宇を再建しました。

翌昭和 50 年（1975）了翁禅師の命日５月 22 日に、この了翁像前で第１回了翁会を開催し、以後毎年黄檗宗僧侶・讃仰者・秋田県人会など多数参列し、寛永寺の年中行事として続けられています。



江戸名所図絵に描かれた勧学講院

寛永寺境内に並び立つ了翁像と頌徳碑（東京都指定旧跡）

故郷湯沢市八幡に残る史跡

了翁禅師の経塚（湯沢市指定史跡）

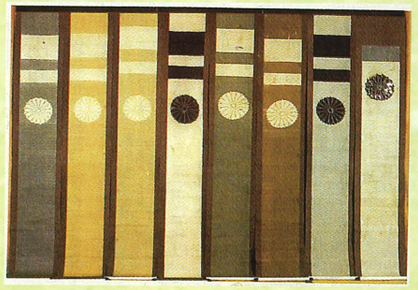
元禄15年（1702年・73歳）、了翁禅師が最後に郷里を訪問した時、前年の「白髭の大水」と呼ばれる雄物川の氾濫による犠牲者を供養するため、千個の石を集めて一つ一つに経文を書いて埋めたと伝えられています。

中央の碑は表に「一字一石拝書　佛弟子」裏に「法華塔」などの文字、了翁没後５年後の正徳２年（1712）と竣工年月日も刻まれていますが、表裏が建立時と逆との説があります。

また脇に（表）「佛国第五代了翁覚老和□」（裏）「宝永四丁亥（ひのとい）年五月念二日弟子了□拝書」と了翁入寂年月日が刻まれた碑もありますが、佛国寺第四代住持ですので誤記と思われます。

八色八筋（やくさやすじ）の旗（湯沢市指定有形文化財）

元禄２年（1689 年・60 歳）、了翁禅師が浄財を寄進し八幡神社を改修した時、輪王寺宮から賜った８本の菊の御紋入旗と赤地金襴御戸帳、半鐘を寄進したと伝えられています。



このうち御戸帳と半鐘は失われましたが、旗は八幡神社の社宝として八幡地区の人々によって大切に保存されています。

了翁杉の伐根

寛永 20 年（1643）14 歳の時、中尊寺に行脚して藤原三代が奉納した大蔵経が散逸しているのを嘆き収集を発願しました。

翌正保元年（1644）父を見舞うため帰郷。凡そ３年の間八幡神社に大願成就を祈願して丑の刻（うしこく）参りなどの苦行を行い、杉苗 580 本を植えました。杉苗は大木となり、大正時代にはその一部が十数本残っていたと言われていますが、現在はこの伐根のみが往時をしのばせています。

平成 15 年（2003）、了翁様の里整備推進協議会（事務局：湯沢市商工観光課）が覆屋など保存整備事業を行いました。

了翁禅師ゆかりの地 MAP

慈眼寺
了翁の生家・鈴木家はこの寺の門前にあったといいます。堂内には了翁の木像が安置され、ゆかりの写真が展示されています。

三百年忌了翁禅師木像
（濱名徳永師寄贈・慈眼寺蔵）

新田集落のお経塚・一字一拝石塔
了翁禅師が洪水防止を祈願して小石に一字ずつ経文を書いて埋めたと伝えられています。昭和初期に一度、さらに昭和 60（1985）年の道路拡幅工事の際、墨書文字の小石千数百個が掘り出され、移転後再び埋め戻されました。

一字一石塔経塚（湯沢市指定史跡）
千個の石に経文を書き埋めた上に碑が建てられています。（詳細裏面記載）

龍泉寺
僧侶・了翁の出発点。境内には「了翁禅師剃髪之所」という碑が建っています。

「了翁禅師生誕之地」の碑
昭和 62 年、了翁の地元研究家・田口大師さんが建てた碑です。了翁禅師の業績を紹介する案内板も設置されています。

長亨庵本尊観音像
江戸時代中期に、黄檗宗寺院長亨庵がありました。黄檗様式を伝える本尊の観音像（白衣観音）は、東山寺（曹洞宗）に伝えられ安置されています。

了翁杉の伐根
15 歳から４年近く参籠修行し、植樹した杉苗 580 本のうちの伐根１本が保存されています。
（詳細裏面記載）

八幡神社
了翁禅師が参籠した神社。仏教僧の了翁ですが、当時は神仏混淆といって、仏教と神道を融合させた考え方が一般的でした。了翁は各地の寺で修行をしましたが、神社に籠って祈りを捧げることも珍しくはありませんでした。

湯沢が生んだ名僧了翁さん

了翁さん（一六三〇～一七〇七）は、江戸時代に活躍した湯沢市八幡出身の黄檗宗の僧侶です。

2歳で母を亡くし、養子となった先々でも不幸が続き、そのうえとても貧乏でしたので寺にあずけられました。12歳の時、東成瀬村の龍泉寺で生涯の一大転機となる斎藤自得と出会い、出家します。一念発起の修行の後、14歳の春、高い志をいだいて奥羽の山脈を越えて中尊寺を目指し、そこで一生を決める大蔵経（一切経）の収集という大願を立てました。

そして故郷をはじめ全国各地の寺社で厳しい修行を重ね、25歳の時、中国から渡来した明の高僧・隠元禅師のもとで求道に励みました。

しかし、病を患い修行も思うにまかせず、煩悩の根源であるとして自分から勢を断つなど、決死の荒行まで行いました。33歳頃のことです。

ところが、その後遺症に大変悩まされました。しかしある晩、明から来た如定和尚が夢枕に立ち、霊薬のつくり方を伝授しました。その効力に驚いた了翁さんは、浅草観音堂におまいりして、「錦袋円」と名づけ、広く人々のために役立てようと考えました。上野の不忍池のそばに薬舗をかまえ、店を縁者の大助にゆだねました。

当初、僧侶が商いするとは、と言って非難する人もいましたが、やがて大評判となり、たくさんの利益をあげることになりました。了翁さんは、ついに念願の大蔵経を買い求めることができました。

41歳の時、大蔵経はまず上野の寛永寺に寄進され、その後二十四年もかけて、天台・真言・禅と三宗の計二十一寺院に納められました。仏教の教学興隆を願った了翁さんの宗派をこえた高い仏教精神がうかがえます。また、孔子や老子も厚く敬いました。

了翁さんは集めた大蔵経の他、日本や中国の万巻の書を多くの人が利用できるようにと、はじめは不忍池に経堂を造り、次いで上野寛永寺境内に勧学講院（学問所）を造りました。

これらは、僧侶ばかりか一般の人も利用できる公開図書館にあたり、大変画期的なものでした。勧学講院では一流の学者の講義や勉強する人のための寮、食事の世話も行われ、こうした費用もすべて了翁さんが負担しました。56歳の時、輪王寺宮天真法親王から勧学院権大僧都法印という大変高い位を贈られました。

了翁さんはまた、江戸の大火の被災者のために寄付したり、孤児をひきとったり、お寺の修造、復興や灌漑工事、たくさんの小観音像や錦袋円の施しなど、社会のために尽くしました。

自分に厳しく、最後まで質素に、理想を貫いた了翁さんの追善供養の石塔は、弟子によって刻まれ、八幡の御経塚の隣りに静かに立っています。

（了翁禅師没後三百年記念誌より転載）

了翁木彫像
（湯沢市役所市民ホール）
制作者 小林陽介（1981～2017）
寄贈者 山内友三郎（2014 年贈呈）
（湯沢市川連町出身・奈良市在住）